

〈世界の資料館から〉

## (4) 米国国立公文書館 (NARA) 新館で調査を楽しむ方法

橘 生子

空港から NARA 新館へのアクセス

「国立公文書記録管理局 (The National Archives and Records Administration: 以下、NARA)」本館は首都ワシントン DC に、新館はメアリーランド州にある。

NARA に関しては、アーキビスト仲本和彦氏の『研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド』(2008, 凱風社) が活用法を紹介している。ここでは、コロナ禍に筆者が経験した新館の文書閲覧室 (Textual Research Room) の利用方法やあまり知られていないこと、ワシントン DC の最新事情をお伝えしたい。

NARA 新館には本館からシャトルバスがある。新館周辺にホテルもレストランもないため、本館の徒歩圏内の宿がお勧め。NARA での調査が目的なら、日本と直行便のあるワシントン・ダレス空港が便利。地下鉄シルバー・ラインが延長し、2022 年に空港からワシントン DC 市内に乗り換えなく移動可能となった。停車駅のランファン・プラザ (L'Enfant Plaza) 駅は本館の徒歩圏内で、スミソニアン博物館群が並ぶナショナル・モールを横断する位置にある。同駅では、DC の地下鉄のほぼ全線に乗り換えられ、タッチ決済可能なクレジットカードで乗り降りできる。

コロナ禍の Zoom 面談

事前準備の重要性は、仲本氏の『ガイド』で既に説明されている。公文書を閉架式書庫から出してもらうには、文書閲覧室カウンターに申請書を提出し、待機する。コロナ前は、館内で専門家に相談し、申請書を記入した。閲覧したい文書が判明していれば滞りなく申請できるため、来館前にメールで相談することはできた。

コロナ禍に閉館後、2022 年夏に再開した文書閲覧は予約者に限定された。予約に必須とされたのは、第一に、オンラインのオリエンテーシ

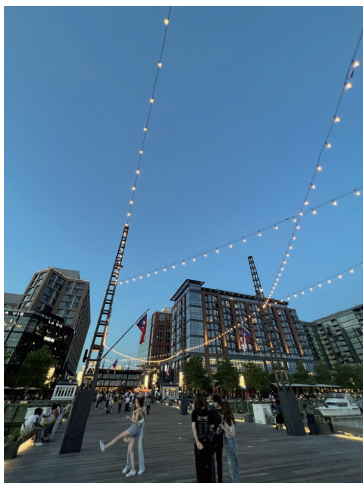
ョンの受講、第二に、希望する文書を来館に合わせて予め出納するための Zoom 面談であった。2024 年 5 月現在、来館予約やメールでの事前相談は引き続き奨励されている。

あまり知られていないこと

筆者が子供たちに資料撮影を手伝ってもらった際、驚いた他の研究者に度々質問を受けた。実際には、NARA は 14 歳以上なら大人と同じ条件で利用できる。また、グループ・ワークも可能である。カートに乗って出てくる文書は大抵、複数の箱に、その中で複数のフォルダーに分類されている。肝要であるのは、複数人で同一の調査を申請する場合、各自が一箱を机に置き、一度に一箱しか開かないという点である。公文書管理と教育的配慮の両立を重んじる米国らしさが感じられる。

ワシントン DC の最新事情

宿泊は前出のランファン・プラザ駅とペン・クォーター (Penn Quarter) 地区が、気分転換には、再開発地区のザ・ワーフ (The Wharf DC) がお勧め。ウォーターフロントでダウンタウンよりも治安が良く夕暮れの散歩は心地が良い【写真 1】。連邦職員の多い DC では珍しく、土日遅くまで営業するレストランが立ち並び、クラブケーキ (蟹肉のハンバーグ) など伝統的な食事も堪能できる【写真 2】。



【写真 1】散歩道 (2022 年、ザ・ワーフにて筆者撮影)



【写真 2】クラブケーキの一例  
(2022 年、米国にて筆者撮影)

(橘生子・当研究所特任研究員)

「世界の資料館から」は、2012 年（第 47 号）以来継続している所報のコラムです。